

めぐみイエス・キリスト教会

2023年3月5日(日)第一主日礼拝

午後2時より

週報「通算第647号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【交読文】 No.28 詩篇第91篇 p. 902

【賛美Ⅱ】 新聖歌448「神より生まれし者よ」 p. 722

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き23章11節～22節(新約p. 283下段)

【礼拝説教】 《パウロ殺害の陰謀》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所(使徒の働き23章11節～22節)

23:11 その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことを証したように、ローマでも証しをしなければならない」と言われた。

23:12 夜が明けると、ユダヤ人たちは徒党を組み、パウロを殺すまでは食べたり飲んだりしない、と呪いをかけて誓った。

23:13 この陰謀を企てた者たちは、四十人以上いた。

23:14 彼らは祭司長たちや長老たちのところに行って、次のように言った。「私たちは、パウロを殺すまでは何も口にしない、と呪いをかけて堅く誓いました。

23:15 そこで、今あなたがたは、パウロのことをもっと詳しく調べるふりをして、彼をあなたがたのところに来て来るように、最高法院と組んで千人隊長に願い出てください。私たちのほうでは、彼がこの近くに来る前に殺す手はずを整えています。」

23:16 ところが、パウロの姉妹の息子がこの待ち伏せのことを耳にしたの

で、兵營に来て中に入り、そのことをパウロに知らせた。

23:17 そこで、パウロは百人隊長の一人を呼んで、「この青年を千人隊長のところに連れて行ってください。何か知らせたいことがあるそうです」と言った。

23:18 百人隊長は彼を千人隊長のもとに連れて行き、「囚人パウロが私を呼んで、この青年をあなたのところに連れて行くように頼みました。何かあなたに話したいことがあるそうです」と言った。

23:19 すると、千人隊長は青年の手を取り、だれもいないところに連れて行って、「私に知らせたいこととは何だ」と尋ねた。

23:20 青年は言った。「ユダヤ人たちは、パウロについてもっと詳しく調べるふりをして、明日パウロを最高法院に連れて来るよう、あなたにお願いすることを申し合わせました。

23:21 どうか、彼らの言うことを信じないでください。彼らのうちの四十人以上の者が、パウロを殺すまでは食べたり飲んだりしないと呪いをかけて誓い、待ち伏せをしています。今、彼らは手はずを整えて、あなたの承諾を待っているのです。」

23:22 そこで千人隊長は、「このことを私に知らせたことは、だれにも言うな」と命じて、その青年を帰した。

●ポイント.1「難破寸前の船における出来事」とは？

※使徒の働き27章23節～24節抜粋「御使いの言葉」(新約p.292下段)

「昨夜、私の主で私が仕えている神の御使いが私の側に立って、こう言ったのです。『恐れることはありません、パウロよ。あなたは必ずカエサルの前に立ちます。』」

●ポイント.2「なぜパウロの甥が遣わされた」のか？

※エステル記4章13節抜粋～14節「モルデカイの言葉」(旧約p.866下段)

「あなたは、すべてのユダヤ人から離れて王宮にいるので助かるだろう、と考えるはいけない。もし、あなたがこのようなときに沈黙を守るなら、別のところから助けと救いがユダヤ人のために起こるだろう。しかし、あなたも、あなたの父の家も滅びるだろう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、このような時のためかもしれない。」

◎先週の礼拝メッセージ【パウロと最高法院】

《聖都エルサレム警備に配属されていた、ローマ軍指令官千人隊長は、翌日ユダヤ最高法院を招集しました。最高法院とは、モーセが神の命令により集めた70人の長老に起源を持ち、メンバーは、エルサレム神殿の丘に集まる70名または71名の議員から成っています。最高責任者は大祭司で、その下に一人の議長がいました。

「兄弟たち、私はパリサイ人です。パリサイ人の子です。私は死者の復活という望みのことで、さばきを受けているのです。」

パウロの発言によって、パリサイ人とサドカイ人の間に論争が起こり、最高法院は二つに割れたのです。なぜなら、祭司長や祭司たちを主とするサドカイ派の律法学者は、肉体の復活も御使いも、霊も存在しないと主張していました。しかし、パリサイ派の律法学者は、体が復活すること、そして御使いも霊も存在すると信じていたからです。

すると、パリサイ派の律法学者たちが何人か立ち上がって、「この人には何の悪い点も見られない。もしかしたら、霊か御使いが彼に語りかけたのかもしれない」と言ったのです。議会は騒然とし、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと恐れ、それ故兵士たちに、パウロを兵営に連れて行くように命じました。

この日、パウロはたった一人で最高法院の席に立ちました。そして裁きを受けたのですが、本当に裁かれたのは、集まった議員の人々ではなかったのではないのでしょうか。福音が語られますと、この議会のように、信じ受け入れる者と敵対する者と言う様に、真っ二つに分かれます。神の言葉は生きています。しかし、その言葉が真価を発揮するには、語らなければなりません。そして、神様は私たちが何を語るのか、常に関心をお持ちです。心に有るものが口から出て行くのです。それだからこそ、神の子どもに相応しい言葉を、何時も語って行こうではありませんか。そうすれば必ず状況は変わって行きます。》

お知らせ

※次回の礼拝は通常通り、3月12日(日)午前10時から行ないます。